

末黒野

すぐろの

5月号（通巻777号）



春立ちぬ

小川玉泉

凍雲の黝き縁染め夕茜
凄まじきまでに鳴きつぎ寒鴉
子の役に立たぬ書ばかり隙間風
音のなき雪受け止むる掌

雪止まずコンビニの灯の煌々と
木造の終の栖家や夕笹子
立春の青空鳥の声こぼれ
枯れもせず池の睡蓮春立ちぬ
春立ちぬ粒の肥やしの溶けぬまま
天頂の宵の三日月冴返る
春光や金魚のをらぬ金魚池
浦風や蛤つゆのみつばの香

冴返る

松本三千夫

節分会 俄善女のひと屯
梅白し若き漁師の島の墓
公園の子の声春のこゑとなる
杣道の杣には会はず露の臺
余寒なほ見せ消ち多きわが句帳
尺ほどの十二神将冴返る
底浅き底脱の井や寒戻る
身の丈の三楹の花日照雨
蹠にあつまる春の寒さかな
火の色となりて流れへ落椿
水温む石一枚の平ら橋
やはらかき雨のにほひの春曙かな

甲矢集

配列は音順（当月巻頭作家は
次号は末尾になり以下同じ）

日脚伸ぶ

田中臥石

飴口に選ぶ出荷の葉玉葱
聾の水仙のほか何も見ず
日脚伸ぶ玻璃戸や妻と保温飯
文机に座すや名残りの雪明かり
立春の日の射す破船操舵室
干鰯場のいさば女春の雪搔けり
下萌や砂丘に埋もる折れ櫓
堰の水春光暈みては岸へ
海鳴りを背に田の芹を摘みゐたり
畦焼きの妻と娘の声交る

春の雪

小野口正江

どんど焼の中には入らず川の堰
さやうならは言はぬ墓前よ雪催
枕辺に曾孫の来てをり牡丹雪
追儼豆撒くも拾ふもひとりかな
二月礼者大日如来は御守護神
牛乳のうすきまくとる雨水かな
行列の出来る菓子店春の雪
まんさくに振り向かされて風の路
緑萼梅枝びつしりと咲き誇り
菜の花の苗を大事に園児来る



乙矢集

配列は音順（当月巻頭作家は
次号は末尾になり以下同じ）
太字は推薦句

春の鴨

大橋伊佐子

病む人へ言葉を選ぶ寒さかな
月光に彩鎮めをり寒牡丹
笛鳴や日のおふれゐる雑木山
せせらぎに日の小躍りや寒明くる
早春や老舗の和菓子彩淡く
春の鴨発ちて夕日を滴らす
滔々と水迸る雨水かな

春北風

岡田史女

この里に生きてゆくなり雪積る
集落や丈余の雪に埋もれて
大根を抜きたる穴や風の鳴る
議事堂の赤き絨毯底冷す
春北風官庁街を吹き抜けて
源平の池の濁りや寒牡丹
聞き役はつねに妹黄水仙



寒明くる 小倉正穂

寒晴れ

菅野日出子

平穏な日々や葉牡丹色深む
さらでだに寒きにぼつり解の灯
風呂吹や身をさり気なく真砂女の句
立春や磨きたる靴日を撥ねて
小流れの鈴の音色や寒明くる
梅ほつほつ出番待つやの鋏置かれ
浮き雲のごと白梅の昏れ残る

白さゆる寒九の川の鷺一羽
疼く膝を湯舟にしぼし虎落笛
冬落暉丘の櫂の切絵めく
傍らに早梅香り無縁塚
寒晴れやきしむ閑伽井の撥釣瓶
あづまやの水かげろふや竜の玉
喪の友へ赤き鉢植寒見舞

初音 乙坂きみ子

ふきのたう 菅野時子

早春の見えぬ水音雑木山
玻璃越しの初音に眼こらしけり
服薬の湯を冷ましをり春の雪
梅散るや仏足石の土踏まず
春遅し結びしままの撞木綱
囀や大樹の暗きところより
この橋の昔は土橋路の臺

次ぎ会ふ日約して炬燵辞しにけり
しばれるやひねもす架線工事音
ただよふも追ひこすもあり風花す
使ふことまれになりたる針祀る
糸鋏並べととのへ針供養
春寒し辻袂合はぬ夢なぞる
ふきのたう懐紙に載せて渡さるる

万 仞 集

受 験 子 の 砂 浜 に 書 く 希 望 の 希	見 つ め ぬ る 顔 み な 朱 し 冬 落 暉	風 に 鳴 る 絵 馬 の 丸 文 字 梅 の 宮	上 げ 船 に 海 女 の 総 出 や 磯 焚 火	雪 吊 を 映 し 水 面 の 張 り 詰 む る	子 の 声 の 夫 似 と 覚 ゆ 鬼 や ら ひ	水 仙 や 寂 し き と き は 香 に 屈 む	本 鳴 き の 期 待 ふ く ら む 笹 子 か な	帽 子 屋 の 棚 は な や げ る 春 隣	豆 を 撒 く 子 は ソ プ ラ ノ の 鬼 は 外
岡 本 ヨ シ エ	石 黒 興 平	牧 は る か	福 田 禎 子	稲 垣 佳 子	城 戸 緑	宮 島 ム ツ	山 崎 稔 子	堺 昌 子	大 川 暉 美

うすら日や稜線うねる枯木山	熊切修
通り過ぐ走者の背筋淑気満ち	根本公子
図書室の閉館チャイム日脚伸ば	土田亮
千支の卯の子等の火入れや飾焚く	上月智子
下車駅の一つ手前や日脚伸ば	大内由紀
枝移る鳥の緊さし春障子	外山生子
屠蘇祝ふ白寿の近き母交へ	八城洋子
恋猫のべろぺろと飲む甕の水	嵐弥生
海に向くベンチ二月の日を集め	外山節子
亡き父母の幾度なでしや陶火鉢	伊藤敦子

巨林抄

折り鶴の生るる指先春隣	枝折戸の開けあり梅の香り来る	雪晴の大涌谷や黒玉子	飛び石の終りはジャンプ春隣	満天に星をいただき猫の恋	舩ひ解く猪首の肩や風光る	人の世の色を奪ひて春の雪	紅梅や小さな店の女シエフ	冬ざれの寄せ来る波や無人駅	餅背負ふ子の潰るるや初笑	折り鶴の生るる指先春隣	春寒の籠城のごと古書店主
荒木千秋	澤田澄子	内田三郎	吉田美智子	向佐幸子	新谷フクエ	北郷和顔	細島孝子	鈴木芙蓉	横路尚子	椎名文子	平澤侃